

令和5年度

訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業（実証事業）

「Go Nature,Go NAGANOを支えるリコメンドガイド養成事業」

実施報告書（概要版）

(1) 事業背景

近年、長野県の観光方針「Go Nature. Go Nagano.」というコンセプトのもと、アウトドアの体験アクティビティを推進してきた。また同様の方針のもと、訪日外国人観光客の取り込みにおいても、「自然・文化・アクティビティ」を軸としたアドベンチャー・ツーリズムに取り組んできた。

そのなかで、ゲストと自然フィールド、地域との接点を担い、かつ法令遵守並びに安心安全の提供、ゲストの満足度に大きく影響する、ガイドの力が、高付加的かつ持続的な観光を発展させていくために必要であることが再認識されている。さらに国際競争力を高めていくためにも、外国語対応のガイド人材育成、アウトドアフィールドで求められる国際水準への引き上げが求められている。

本事業では、ガイド育成並びに国際水準の装着、長野県が推奨するレベルを制定するために、海外におけるアドベンチャー・ツーリズムの市場を参考にしている。

クライアントケア、リスクマネジメントの例であるWMA野外災害救急法(以下、「WMA」とする)や、フィールドへのミニマムインパクトの例であるLeave No Trace(以下、「LNT」とする)は世界が求めるガイド水準として必須であると考えられる。

一方で、長野県内の通訳案内士が現在約180名、信州登山案内人現在420名（令和5年4月時点）のうち、上記WMA、LNTの有資格者は約5%にとどまっている。そこで、本事業では、上記のスキルを身に着ける研修等を行い、長野県が推奨する「リコメンドガイド」の育成と積極的な手配事業者とガイド間連携による受入体制の強化を目指すための実証事業を行いたい。

事業背景と事業概要

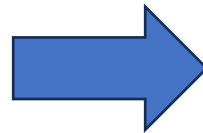
(2) 事業概要

- 1) プログラムの作成
- 2) セミナー・研修の実施
- 3) 有識者検討会の実施
- 4) リコメンドガイド紹介のためのランディングページの作成

1) プログラムの作成

現状と課題

- アウトドアの裾野が広がっている中で、マナー・モラルの違反、安全管理を無視した危ないガイディングを実施するガイドが存在するケースが報告されている。
- 訪日外国人旅行者の取扱件数が急増しており、外国語でのガイディングに不慣れなガイドに依頼せざるを得ないケースも増加している。
- アウトドアフィールドでは、常に安全管理上のリスクが存在し、多言語対応だけではなく、リスクマネジメントのスキルがあり、かつフィールドを持続可能なものとする環境倫理に知識を持ったガイドがより求められている。



『英語でリーダーシップを発揮し、安全管理を行い、環境倫理を身につけ、救急事案へも対応できるアウトドアガイドの養成』を目指す。



セミナー・研修の実施



国土交通省北陸信越運輸局
令和5年度訪日外国人旅行者記入型推薦書審査対象事業（保証事業）
「Go Nature, Go NAGANOを支えるリコmendガイド養成事業」

長野県では、「Go Nature, Go Nagano」をコンセプトに、訪日旅行者に向けて「自然を楽しむ、愛する」文化やアクティビティを提供しています。より充実した体験を導くためにはガイドの存在が欠かせません。本事業では、長野県内を中心とした国内のアウトドアガイドを対象に、国際標準の資格取得研修、英語でのコミュニケーション、安全管理、環境教育、緊急対応などの研修を実施します。また研修を経て一定の成績を収め

Go Nature, Go Nagano 国際資格取得研修コース & 英語アウトドアガイド育成

実施期間：2023年8月～2024

※詳細スケジュール、内容は裏面を御覧

対象：長野県をフィールドとしたアウトドアガイドまたは英語通訳・スルーガイドとして、アウトドア参加条件：アウトドアガイド・通訳案内士など（現行コースごとの参加条件を確認ください）

申込締切：各研修の2週間前迄
申込先：申込みフォームより申込みください（右QR）
問合せ先：Go Nature, Go Naganoを支えるリコmendガイド養成事業事務局（JTB長野）
メール rg.go.nagano@gmail.com

資格研修	日程	会場	参加条件	内容
アウトドアガイド セミナー	8/8 佐久市 8/21 高森 8/25 大町 8/31 調整中	8/8 安曇百穂記念アウトドアセンター（佐久市） 8/21 信州高森青少年自然の家（高森町） 8/25 山岳総合センター（大町市） 8/31 長野市 or 佐久市にて調整中	・これからの英語アウトドアガイドとなるポテンシャルを持つ人材	■野外災害救急法体験セミナー（3時間） ■LNT体験セミナー（3時間）
Leave No Trace Trainer 国際資格コース	<第1回> 9/7-9/8 <第2回> 9/28-29	安曇百穂記念 アウトドアセンター （佐久市）	・これからの英語アウトドアガイドとなるポテンシャルを持つ人材	LNT7原則の基本的な概念や体験学習の指導方法を学ぶコース。 *資格取得にまつわる費用10,000円、並びに宿泊費は自己負担となります。
Wilderness Advanced First Aid 国際資格コース	<第1回> オンライン学習： 9/21-10/4 実地研修：10/2-10/4 <第2回> オンライン学習： 12/1-12/11 実地研修：12/12-12/14	国立信州高森 青少年自然の家 （高森町）	・これからの英語アウトドアガイドとなるポテンシャルを持つ人材	アウトドアガイドが直面する危険リスク、野外に特化した救急法をオンラインで体系的に学び、その後、実践を通じて実装するコース。 ■オリエンテーション ■アーススタディ ■実習 ■最終試験 *資格取得にまつわる費用25,000円、並びに宿泊費は自己負担となります。
海外 リスクマネジメント 資格コース	12/6-12/7	国立信州高森 青少年自然の家 （高森町）	・全国通訳ガイド/地域通訳ガイド、もしくはそれに準ずる資格を保持するもの（実地での研修となります）	■Vristar リスクマネジメントコース ・米国から講師を招き対面にて実施 ・合宿2日間で開催
英語ガイド研修	<第1回> 1/5-1/6 <第2回> 1/27-1/28	国立信州高森 青少年自然の家 （高森町）	・全国通訳ガイド/地域通訳ガイド、もしくはそれに準ずる資格を保持する人材 ・WAFI、並びにLNT Trainer資格保持する人材	■リスクマネジメント実証 ■英語での緊急対応実技 ■英語でのインテリジェント実技
訪日外国人旅行者を 招いての実働研修	<第1回> 2/0-2/11 <第2回> 2/21-2/22	調整中	・全国通訳ガイド/地域通訳ガイド、もしくはそれに準ずる資格を保持する人材 または ・複数アウトドアガイド（英語ガイド研修を修了している方が好ましい）	「英語ガイド研修」の実践バージョン

資格研修	日程	講師名			参加人数
アウトドアガイド セミナー	8月21日	吉沢 充世	小口 良平	吉田 理史	6人
	8月25日	吉沢 充世	小口 良平	吉田 理史	9人
	8月26日	吉沢 充世	久保田 雄大		4人
	8月31日	吉沢 充世	久保田 雄大		10人
Leave No Trace Trainer 国際資格コース	9月7日	久保田 雄大	吉田 理史		17人
	11月9日	久保田 雄大	小口 良平		19人
Wilderness Advanced First Aid 国際資格コース	10月2日	寺田 達也	稲垣 泰斗		13人
	12月12日	寺田 達也	羽生 知也		18人
海外リスクマネジメント 資格コース	12月6日	Jeff Baierlein	横堀 勇	服部 カミイ	12人
英語ガイド研修	1月15日	横堀 勇	服部 カミイ		9人
	1月27日	横堀 勇	服部 カミイ		7人
訪日外国人旅行者を招いた 実働研修	2月7日	横堀 勇	山田 利行		9人
	2月24日	横堀 勇	服部 カミイ		3人

※上記内容は募集開始時の内容であり、一部実施日を変更して実施

質問項目

1	今回参加したプログラムを教えてください
2	プログラムで最も役に立ったものは何ですか？
3	今回のプログラムに参加した理由を教えてください
4	今回の研修を通じてリコメンドガイドの認定条件として 1. WAFAの国際資格 2. Leave No Trace Trainer 認定 3. 語学力（通訳ガイドレベル） 4. 1,2,3に加えてガイド研修内での考査 を条件にリコメンドガイド認定を行いました。今回のスキームについてご意見ください
5	今回と同じ内容の研修があった場合ガイドの仲間に勧めたいですか？
6	次年度実施する場合に希望することについて教えてください

分析結果

【参加目的について】

・今回の研修には、すでに「ガイドをしており、スキル向上のために参加した」という動機が多く見られた。また同様に、資格取得をサポート付きで行える、今後のガイド活動のために学びたい、声が多かった。

【事業枠組みについて】

- ・全体的な構成については納得感・信頼感がある様子が伺えた。
- ・今後に向けての改善提案としては、以下のような回答があった。
 - リコメンドガイドの定義をより明確化してほしい
ガイディング経験（年数、インバウンド対応経験の有無）
語学力、国際コミュニケーション能力でのスクリーニング（または研鑽の機会）
 - リスクマネジメント講習も日本語で必須講習としてほしい

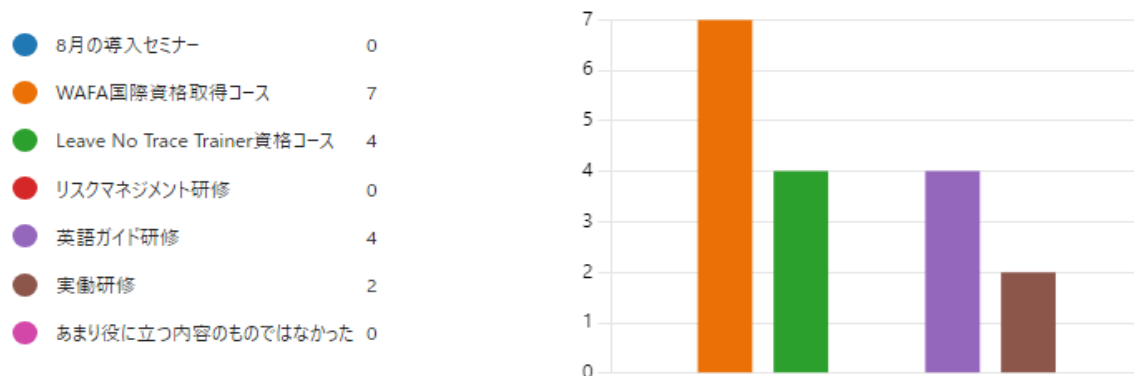
【来年度以降への希望】

- ・リコメンドガイドの定義をより明確に、オンライン説明会などを実施してほしい
- ・山岳ガイド以外のフィールドでの研修実践の場がほしい（サイクリング、パドリング、まち歩き、など）
- ・他のガイド資格（山岳ガイド協会など）との資格についての連携があると助かる

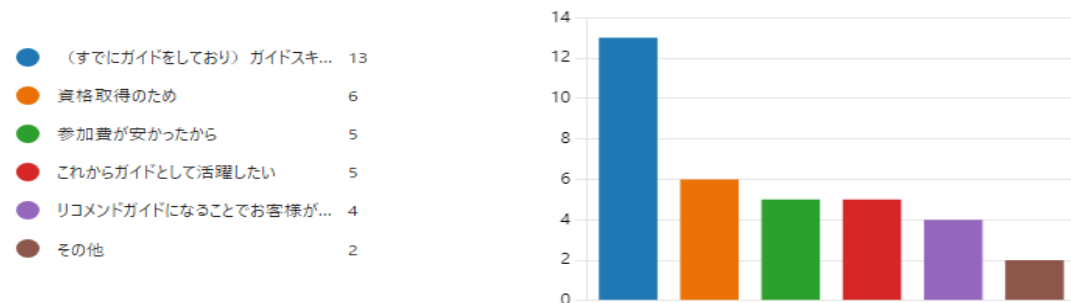
また全体としては、回答者の9割以上が、本事業や研修をガイド仲間へ勧めたいと回答している。

セミナー・研修の実施

2. プログラムで最も役に立ったものは何ですか？



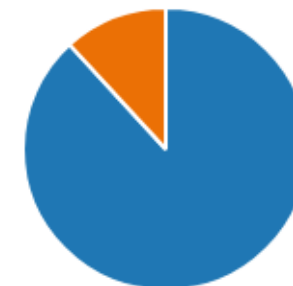
3. 今回のプログラムに参加した理由を教えてください



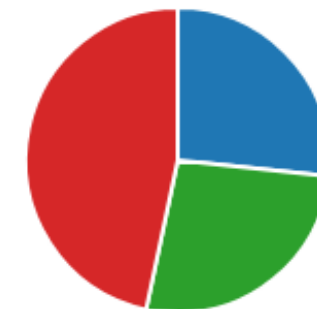
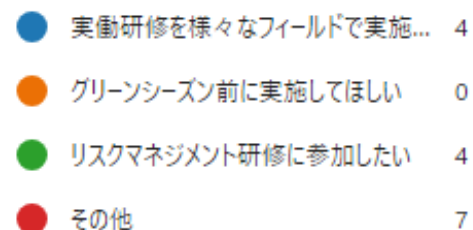
その他回答

- ・アクティビティ系ツアーガイドとしての知識を得たかった
- ・長野で活躍するガイドの方々と交流して情報交換できるのではないかと期待したから

5. 今回と同じ内容の研修があった場合ガイドの仲間に勧めたいですか？



6. 次年度実施する場合に希望することについて教えてください



その他回答

- ・どのようなガイド像を育成したいのか、募集当初にもう少し明確にした方が、応募者のミスマッチがないと思う。(3000メートル級の山岳登山が可能な者etc)
- ・今回と同じ形式で(単発でも受講できる形で)実施して欲しい
- ・実技研修を様々な場所・季節で実施してほしい。なるべく早くに予定を発表してほしい。ガイドに必要な英語力を向上できる取り組みをお願いしたい。

4. 今回の研修を通じてリコメンドガイドの認定条件として

①WAFAsの国際資格、②Leave No Trace Trainer 認定

③語学力（通訳ガイドレベル）④1,2,3に加えてガイド研修内での考査

上記を条件にリコメンドガイド認定を行いました。今回のスキームについてご意見ください

● 今のスキームでよいと思う	6
● 今のスキームは良いと思うが、ガイド...	2
● 今のスキームは良いと思うが、語学...	0
● 今のスキームではよくない	0
● その他	9



その他回答

- ・募集対象を、山岳ガイドができる方に限るのであれば、今回のスキームで良いのではないかと思います。
- ・WAFAsは講義以外の場でも何度か復習の確認がありました。LNTはなかったように思えます。LNTの知識も確認するプロセスがあった方がよいのではないのでしょうか？
- ・ガイドのスキルや知識を保証もしくは考査したほうが良いと思います。（日本山岳ガイド協会の資格や信州登山案内人の資格保有を条件にする等。
- ・今のスキームで良い、です。ただし、ツアー業界知識がない者に対しては、今年はレコメンドに選ばれないこと、業界や必要な知識を得る学びの場を提供するものとなること、を予め伝えてはいかがでしょうか？英語ガイド研修の総評では「ツアー業界の経験知識を身に着けることで、通訳枠のリコメンドとなりえる。来期以降の研修参加を期待しています」との事でしたので。
- ・プログラムが北米標準主体であることから私の日々の業務フィールドとのギャップがかなりあると感じました（長野県の現実の市場環境は北米より欧州が近く、ベンチマークとなると思います）、全体的にとっても実践的なプログラムでありがたかったです。県のプログラムということで、レスポンスツールの観点からも、今回参加された県外のガイドさんが継続的に県内の特に過疎地域のフィールドの持続可能な成長にコミットしていただけるような流れもできるとより有意義かと思いました。
- ・今のスキームは良いと思いますが、なるべく全ての講座に参加することを認定の条件にした方がよいと感じました。それは認定に向けたスクリーニングのプロセスを多層化しより公平な判断材料を用意することにも繋がると思います。具体的に言えば、LNTとWAFAsは基本的にはしっかり取り組めば受講者全員が資格取得することができる印象を受けたので、実質英語ガイド研修が唯一のスクリーニングになっている印象を受けました。語学力の考査も今回の語学力認定試験に加えて、客観的な語学試験を受講させてその結果も加味するとより明瞭な選考プロセスになるかと思いました。語学力が全てでないのは大前提として、語学力試験の客観的な数値を見ておけば、今回の語学力考査では語学力以外の国際コミュニケーション能力を問うことができ、棲み分けもはっきりすると思います。また、ガイド経験を問う場合も、ただのガイド経験でなくインバウンドガイド経験を問う方が良いと思います。ガイド経験が豊富な方もインバウンド対応はしたことない方もいるためです。こうした諸々の事情を鑑みると、認定のためには実働研修による考査を加えるのは必須だと感じました。
- ・ガイド経験と語学力の両方を持ち合わせている受講者は少ないと思われるので、どちらを重視するか方向性を明確にした方が良いと思います。もしくはガイド経験が少ない（もしくは無い）が語学力はある人と、ガイド経験は十分だが語学力が足りない人は別コースで研修をするなどの工夫が必要だと思います。
- ・リスク管理も必須とした方が良い。ただし日本語で良い。

令和5年度リコmendガイド認定者一覧

	認定者	認定内容
1	長島 美樹	アウトドアガイド
2	吉田 智輝	アウトドアガイド
3	石原 智樹	アウトドアガイド
4	大沼 和彦	アウトドア通訳
5	大幡 聖子	アウトドア通訳
6	岡部 雅代	アウトドアガイド
7	杉本 龍郎	アウトドアガイド
8	小嶋 住江	アウトドア通訳
9	古田 大	アウトドア通訳

認定基準

以下の5つの項目を総合的に判断した。

- ・英語でのコミュニケーション能力
- ・英語でのガイド能力
- ・英語でのインタープリテーション能力
- ・英語でのWAFAsの実行能力
- ・リスクマネジメントに関する筆記問題（5問）

認定内容

アウトドアガイド：**English Speaking Outdoor Guide**

英語ができるアウトドアガイド

アウトドア通訳：**Outdoor English Interpreter**

アウトドアガイドをしないものの、アウトドアガイドの安全管理よく理解している英語通訳

有識者検討会の実施

検討会目的

長野県で国際水準のアウトドアガイドを育成していくために、国内海外での先進事例を有識者から学び、長野県内での課題解決や今後の取り組み（啓発活動・ガイド育成体制・ガイドとツアーオペレータの接点の構築など）についての中長期計画を検討する場とする。

開催場所

長野市内（ホテル信濃路）

開催時期・講師

8月30日(水) 第一回 検討会

「北海道アウトドアガイド制度制定に至る背景やその成果について」
一般社団法人 北海道体験観光推進協議会 専務理事 伊藤義廣 氏

10月26日(木) 第二回 検討会

「箱根におけるガイド認定制度の導入事例の紹介」
箱根DMO / Explore Hakone CEO, Chief guide 金子 森 氏

「アウトドアガイド認定制度と運営課題、法的整備について」
ゆいと法律事務所 石塚 慶如 氏

12月8日(金) 第三回 検討会

「アドベンチャーツーリズムにおける諸外国のリスクマネジメント対応」
Jeff Baierlein 氏 (Viristar / Director)

有識者検討会の実施

第一回検討会

- ・コロナ禍では事業者支援を行っていた。急速にインバウンドが戻る中で、選ばれるためにガイドの存在は必要不可欠。5か年計画でも長野県の良さを伝えられる人材育成を位置づけている状況。既存の制度をどのようにブラッシュアップしていくかを考えるべきタイミングだったので本日の話は有意義だった。
- ・受入環境、オーバーツーリズムの課題も出てきているところ。量から質へということが求められている中で、上質な客の受入れという視点からは貴重な体験をしてもらうため、ガイドの存在は必要と考えている。
- ・リコメンドガイドとして発信するのはまず第一歩。今後、地域としての仕組みづくりを担う機能を観光機構が持つべきかという部分も含めて、これから先見据えて考えていくべき課題と認識している。

第二回検討会

- ・リコメンドガイド制度を持続可能としていくことが重要で、質をいかに保ち継続するかが大切で大変なこと。誰かが責任という話もあったが、責任を持って持続可能にやっていくためには担保が必要と考える。担保としてはやはり財源を考えていくことも必要。

第三回検討会

- ・北米、オセアニアとの差、海外のスタンダードに合わせていく必要性を感じた。日本全体での制度が整っていないが、海外からアドベンチャートラベルが入ってきている現状に危機感を感じる。
- ・安全管理については、日本流にアレンジする必要がある。懸念としては、ガイドの資格をとわれること（お客様の方から、君は何の資格持っているの？と聞かれる）他国と勝負するためにも、ガイド水準を担保する資格制度を押さえておく必要はある。
- ・行政や観光協会の担当者こそ、リスクマネジメントの研修を受講する必要があると感じた。要望として、当該研修を英語という言語ハードルで断念するのは悲しい。段階的に日本語でもコースを受講できる仕組みがあるとありがたい。

ランディングページの作成

長野県観光機構が運営する『Go Nature Go Nagano』の英語版ページ内にLPを作成。各ガイドの紹介とメインフィールド、資格を掲載。
詳細として取材ページの作成と各ガイドのコンタクト先を掲載
※英語と日本語の2言語対応

GoNAGANO Nagano Prefecture Official Tourism Site



The Jigokudani Wild Monkey Park



Karuizawa

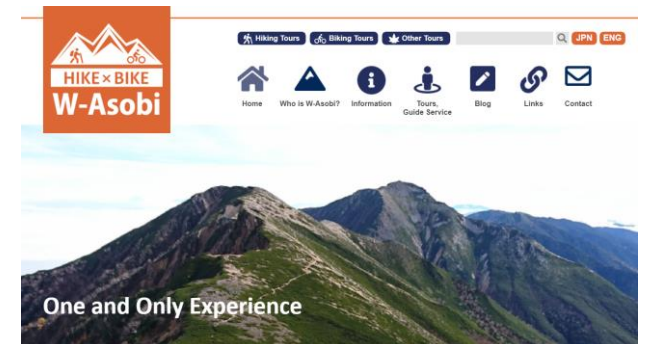


ガイドの紹介ページ

ガイドのコンタクト先



出発から2日目に嵐が来るといふハプニングに見舞われ、雨風が強くて移動できなくなってしまったのです。そのときは講習生みんなで計画変更で頭を抱えましたが、研修中に激しい雨に当たったことで、自分の許容できるリスクが広がり、それ以降自信を持ってガイドできるようになったと思います。☺



来年度以降に向けた提言

来年度以降の方針についての提言

- ・リコメンドガイド事業の全体と仕組みについて参加者からの疑問が多く、コースの時間が割かれてしまった。募集のフェーズでわかりやすく説明するオンライン説明会を開催したほうが良い。（録画でも良い）
- ・プロジェクトの発表、募集、開催までの期間が短かったので強気の集客条件にできず、参加者とのやりとりが多かったり、キャンセルが出やすい仕組みになってしまった。プロジェクトの日程調整、告知のところから、早期にできるように変えていったほうが良い。
- ・LNTJとしては、日本の各所地域で起こる、アウトドアフィールドと環境保全のコンフリクトの解決にコミットしていきたいと思っている。長野県ならではの個別の環境問題に、観光機構、県の山岳高原観光課、環境省 中部山岳国立公園管理事務所などと連携を取りつつ、ガイドを通じて、啓蒙、改善（例えばライチョウ保護、北アルプスのインバウンドの遭難減少など）がリコメンドガイドの仕組みとともに回るようになったら理想的である。
- ・2017年に長野県が着手し始めた、英語アウトドアガイドの育成。それまでは単年、低予算で、火が着いては消えての繰り返しだったが、今回は大きな火種を作ることができた。この火種を絶やしてはならないと考える。
- ・大きな火種の中心にはガイディングのベースとなる、国際資格取得（WAFA・LNT）が位置していた。資格なので有効期限もあるので、県としてどのようにフォローアップしていくのか検討を要する。
- ・また「資格」であることに大きな意味があることは言うまでもないが、リコメンド自体が資格でない性質上、今回RG取得したガイドにどれだけの利点を与えられるのかは未知。今後RGに対しても資格化・制度化するなど、検討ではなく今すぐの実行が求められる。